

2022年11月19日

第63回全国スポーツ推進委員研究協議会滋賀大会に参加して

11月17日（木）18日（金）滋賀県草津市YMITアリーナに全国から2000名の方が出席して3年ぶりに開催されました。主催はスポーツ庁、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合会他で、コロナ感染症対策を取りながら従来とは違った形で進められ、開催地の滋賀県は全スポーツ推進委員535名がこの行事に関わり草津駅から会場までは100mおきに誘導係を配置して元気なあいさつと笑顔で迎えていただきました。

大会テーマは、「わた SHIGA 輝く未来のために」～スポーツでつながる喜び～

私達は、スポーツを通じて国民に生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活が営むことができる社会を目指しています。そのために、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを通じて、自発的な参画し、「楽しさ」や「喜び」を得ることで、スポーツそのものが有する価値やスポーツが社会の活性化に寄与することが重要です。

地域スポーツのコーディネーターとしてスポーツ推進委員が果たす役割や活動の方向性について、全体シンポジウム及び2つの分科会において研究協議を行いました。

印象に残っているのは、①講演していただいた地元甲賀市出身のパラトライアスロン銀メダリスト 宇田秀生氏、演題「今しかできないこと」入籍5日目に仕事中に右腕切断。講演で感じた明るくポジティブな行動に感動。②シンポジウムと分科会で、With コロナでの活力ある地域社会の実現を目指した取り組み事例を共有するとともに、地域の特性を活かした取り組みが紹介された。コロナ禍だからできないではなく、出来ることから少しずつ進めている市町がある。人があり行動を起こしています。

12月に開催の理事会や「スポ推」に詳しく報告いたします。



講演の宇田さん

